

## 高等部への主なコメント

No	所属先	内 容
1	特別支援学校	小学部、中学部のつながりで高等部の作業学習の実践を見ると、キャリアを考えながら実践を積み重ねていく必要があることがよく分かりました。また、合わせた指導の中で教科の視点を無理なく取り入れながら、学びの文脈の中で深い学びにつなげることが必要ということが分かりました。
2	特別支援学校	生徒自身が仕事の役割分担を行う等、考える場面が丁寧に設定されていました。日誌については文字表出が難しい生徒に対し、どのように「わかる」ための自己評価を行うための工夫がされているのかはもう少し知りたいと思いました。

### 高等部から

- ・実態によっては日誌とともに実物や写真等を用いてその日の作業内容と成果を確認し、教師が記入するなど、記入の方式や活用の仕方も様々です。
- ・どのような実態の生徒にとっても、「見通し（これから行う作業が分かること）」と「振り返り（自分が行った作業が分かること）」は重要であると考えます。作業日誌は、その手続きを意識づけるためのツールとして活用しております。
- ・全員が共通するツールを活用することで、所属意識の高まり、主体性、責任感など、様々な波及効果もあると考えております。また、日誌は単元や年間を通じた取り組みの記録としても活用しています。

3	教育関係機関	事例対象生徒の深い学びの解釈がすごくよく分かりました。また、生徒の変容がよく分かりました。キャリア教育そのものではないかと率直に感じました。また、作業日誌が重要だと思っているのですが、今後、どのように変更していくのか、あるいは活用していくのか知りたいと思いました。
---	--------	--

### 高等部から

作業日誌については、No.2のご質問にまとめて回答致しました。

4	特別支援学校	木材の数をノートに書く際に、自分で考えさせて気づかせてという、段階を踏んだ支援（言語指示→表を見せて→現物を見せて）をあえてしていたことに、驚きました。特別支援学校では、どうしても最初から手厚い支援をしてしまいがちなので、反省です。個に応じて、どんな支援が必要かを検討することが大切だと改めて感じました。
5	特別支援学校	木工以外の作業学習があれば併せて知りたかったです。

### 高等部から

- ・生徒の実態や教育的価値、地域性等を考慮し、木工班以外に農耕班、工芸班を設定しております。
- ・達成感、成就感、意欲や態度などの観点から、最もシンプル且つ分かりやすいものとして「ものづくり」というキーワードのもと「製品を作り、販売する」活動に年間を通じて取り組んでいます。これは全班に共通するものであり、どの班でも学べることが重要であると考えます。同時に、個々の生徒の実態や課題、ねらいに応じ、班それぞれの特性、強みが最大限に生かされるよう心掛けながら活動を展開しています。

6	特別支援学校	高等特別支援学校で働いている中での自分の実践と、発表の実践に共通する考え方が見つけられ、高等部の指導で目指していくものを再確認することができました。
7	教育関係機関	「はたらく」というのは、抽象的ですが、生徒の実態とよくマッチしているからか、教育活動に「自然さ」を感じました。この辺りが、授業づくりのポイントなのではないかと気づきました。また、総合的な探究の時間の発表も、学び「深める」という点で、とても興味深いものがありました。

8	特別支援学校	高等部において作業学習をどのように位置付けて、どのように実践、評価していけばよいか、とても分かりやすい、素晴らしい実践をされているなと思いました。
9	特別支援学校	作業学習で深い学びを追求するときに、授業の導入時の目的意識とその継続に加えて活動の振り返りの在り方が大きく影響するように思います。中心となる活動だけでなく、その前後のやり取りをもう少し知りたかったです。

### 高等部から

各班で取り組む日々の導入、活動、振り返りは生徒の実態、テーマと班の実情等により様々ですが、「製品を作る」「販売する」などの目的意識をもって日々の作業学習に取り組み、「仲間と協力することができた」「どうすればよいか分かった」「良い製品を作ることができた」「期限を守ることができた」「苦手なことに挑戦することができた」「お客さんにたくさん買ってもらうことができた」など、様々な「分かった、できた」が日々、単元、年間と連なることで、成果として実感することができるものと考えています。年間通した取り組みの中で、生徒が作業への目的意識を高められるように教育課程を組んでいます。

10	教育関係機関	高等部卒業後の子どもたちの様子を聞くにつけ、在学中に身につけるべきことはなんだろうと考えさせられます。今回の研究を通して、作業工程の技術や丁寧さだけではなく、それを高めることの意味や、人に報告することの意味など、作業学習の中で身につける行動の意味を子どもたちが実感を伴って感じるということが、卒業後にもつながるのだろうと感じました。
11	特別支援学校	生徒の様子から、自分で作業に取り組み、「よし」といって取り組む姿が素晴らしいと感じました。自分で気付き、考え、行動する姿を引き出すために、先生方が深く学ぶための姿を予測し、共有し、環境や学習状況を作られているのだと思いました。
12	小学校	生徒の作業の手際の良さにびっくりしました。生徒が経験を通して学ぶ中で、教師はどのような手立てを講じるのか、話し合い、連携の大切さを実感しました。
13	学生	事例児の学びの深まりがよく見え、教師が意図的に関わることや環境を整えることの大切さを改めて感じた。ただ作業に取り組むだけでなく、作業1つ1つの意味を理解することも就職に向けて大切なことだと思った。
13	小学校	言語指示だけでなく、視覚的に認識、確認することで、お子さんの「わかる」や「意欲」につながることを改めて感じました。トライアンドエラーから学べるよう、学習活動を設定していきたいと思いました。
14	特別支援学校	「質の言語化」を自分も取り入れていきたいと思いました。言語化し、生徒と教師が共有することで、目標が明確となり、目的意識を持って活動できると感じました。
15	小学校	協議会の記録を読み、就労に向けて、どう考えていくか勉強になりました。
16	特別支援学校	「作業学習」を「総合的な探究の時間」を関連させた取組が新鮮でとても興味深い内容でした。一方、「総合的な探究の時間」における探究課題は、「自己の在り方生き方を考えて課題を発見する」ものであったように記憶しています。とすると、本実践における探究は「職業科」や「家庭科」のような教科における探究活動となるのでは、とも感じました。
17	学生	失敗を悪いこととしない雰囲気作りは、生徒がトライアンドエラーを積み重ねる上で重要であり、そのためには日頃からの教師による声かけやクラスづくりが適切であるからできることなのだと思います。
18	特別支援学校	就労を見越した教育課程の中で、自分で気づくことや自分なりのやりやすいやり方を獲得することそして、適切なコミュニケーションについて等、高等部は学ぶことが直接社会につながるからこそ、個々につけたい力の焦点化が大事になると再認識しました。

19	特別支援学校	表現が正しいか分かりませんが、ちゃんと各教科等を合わせた指導を行えば、しっかりと各教科の内容が含まれているんだなと改めて感じました。また、ものづくりにこだわるということから「こだわり」の大切さも感じました。不易と流行ではないですが、時代の流れには乗りながらもしっかりと歴史に学ぶことを忘れないようにしたいと感じました。ありがとうございました。
20	特別支援学校	卒業後の生徒たちの課題から、必要な資質能力を考えて学校の活動の中で身につくように考えられていて素晴らしいと思いました。
21	特別支援学校	様々な作業班が、同じ班の仲間と協力して製品を作っているところ、製品の品質を生徒が分かりやすいように言語化、見て分かるようにしているところなど、とても参考になりました。
22	特別支援学校	高等部生ならではの、より高次でより細部への理解を促していく取り組みが素晴らしいと感じました。生徒が役割分担の配当までできる、まさに社会へとつながる取り組みは、ぜひ参考にしたいです。
23	特別支援学校	木工班での、子どもと教師の頭の中で考えていることのすれ違い、よくあることだなあと感じ、それをどのようにして子ども自身に気がついてもらえるかが、次のステップへの成長につながると感じた。
24	福祉施設	木工班の生徒の方の事例について、教師の働きかけの変化による本人の理解の面での変化が分かりやすくまとめられていると感じました。活動に使用する道具の提供の仕方も本人が「どうなってほしいのか」を考慮した設定となっていて大変勉強になりました。
25	学生	組み立てを通じて丁寧・正確に作業を行う必要性に気がついたというところで、ただ「○○しなさい」というのではなく、「なぜ○○しないといけないのか」ということを生徒自身に気付かせ、実感させることが深い学びに繋がっていくのだと学ぶことができました。